

Tobe Zoological Park of Ehime Pref.

たんずoo

2025

Vol-37

No.1



目次

園長あいさつ	3
ZOOダイアリーグラフ	4
例会報告	6
飼育レポート	8
動物園のなにげない一日	12
わたしの野帳	14
動物病院から	15
動物園再発見	16
Keeper's Note	18
会員のページ	19
職員紹介	20
読者投稿用紙	21
ルトラーをさがせ!!	23

—表紙説明—

■ミナミコアリクイ

英名：Southern Tamandua

学名： *Tamandua tetradactyla*

南米北部に生息し、大きな^{かぎづめ}鉤爪や太くて丈夫な尻尾を使って木の上で生活しています。特徴は、主食のシロアリを食べるのに役立つ約40 cm の長い舌、黒いベストを着たような体の模様などです。体を大きく見せようと二本足で立ち、両手を上げた大の字のポーズは^{いかく}威嚇なのにかわいい！と有名です。

とべ動物園では、2025 年 1 月 10 日にお父さんのペロとお母さんのツムの間に赤ちゃんが誕生しました。「イト」と名付けられた赤ちゃんは、生まれたばかりの時は担当者が介添え哺乳をしていましたが、現在はお母さんの背中に乗ってすくすくと、元気に成長中です。

(写真：横手 凱・文：村上 ひなの)

「愛媛動物友の会」令和7年度のスタートを迎えて

愛媛県立とべ動物園園長 宮内 敬介



木々の緑葉が暖かい日差しを浴びて、力強く生い茂る季節となりました。日頃より、愛媛動物友の会の活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。本誌では、動物たちの近況報告をはじめ、飼育の裏側や季節ごとのイベント情報、そして友の会の皆様との交流の様子など、盛りだくさんの内容をお届けいたします。ページをめくるたびに、動物たちの息遣いや、動物園の活気が伝われば幸いです。

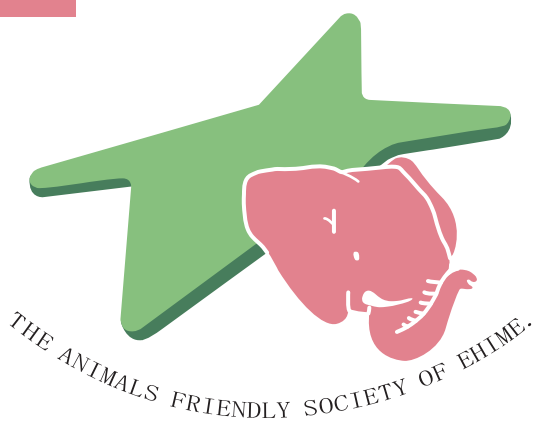
昨年度を振り返りますと、新たな家族として、シロオリックス・カリフォルニアアシカ・フンボルトペンギン・アカカンガルーなどが誕生し、その愛らしい姿は来園者の皆様の心を癒やしてくれています。

一方で、長年皆様に愛されてきたライオンのリリー（メス 17 歳）、トラのダイ（オス 14 歳）などの動物が亡くなりました。共に過ごした年月を想い、職員一同、深い悲しみに包まれましたが、その存在は今も私たちの心の中で生き続けています。これからも動物たちの命を大切に守り、繋いでいく使命を改めて感じています。

近年、地球規模での環境変化は、動物たちの生息環境にも大きな影響を与えています。当園では、種の保存の重要性を認識し、希少動物の繁殖や保護活動にも積極的に取り組んでいます。また、動物福祉の向上を目指し、飼育環境の充実やエンリッチメント（動物の行動を引き出す工夫）にも力を入れています。これらの活動を通して、来園者の皆様に、動物たちの生態や自然環境について学び、考えるきっかけをご提供できればと考えております。

愛媛動物友の会は、動物園と会員の皆様を結ぶ大切な架け橋です。皆様からの温かいご意見・ご声援は、動物たちのより良い暮らしの実現に繋がっています。今後とも、動物たちの魅力を発信し、皆様に楽しんでいただけるような企画を検討してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

愛媛動物友の会 シンボルマーク



<シンボルマークの説明>

愛媛県は、海と緑の豊かな自然に囲まれた土地です。このようなすばらしい環境に住む我々県民は、愛媛の自然や文化はもとより、歴史や伝統、産業などの優れた資産をしっかりと継承し、「愛のくに 愛顔（えがお）あふれる愛媛県」を基本理念として更に発展させ、次の世代へと引き渡していくべきだろうと思っています。

動物園は、動物を介し、情操豊かな地方文化の発展に少しでも貢献できることを願い、愛媛県の地図をマークとしてデザインしました。アフリカゾウをモチーフに使ったのは、愛媛県に初めての御目見えであり、キリンやライオンと並び、小さなお子さんから大人の方までとても親しまれている人気動物だからです。

このマークが多くの人々に愛され、県民の方々はもちろん、県外からも数多くの動物愛好家が集まって動物と人、人と人の輪が大きく広がる事を願っています。

（デザイン：椎名 修）

ZOOダイアリーグラフ

2025.1.31 ~ 2025.4.30

2025年度も
よろしく
お願いします！

ねこ歩き 2月22日・23日・24日

今年も大人気イベント「ねこ歩き」を行いました。6倍の倍率に当選された参加者の皆さんは、トラの獣舎探検やジャガーのエサやり体験など、ネコ科の魅力満載のガイドツアーを堪能されました。

トラの運動場から見る
ジップライン！



開園セシモニー 4月1日



当園は今年度で37周年を迎えました！いつも応援ありがとうございます！これからも動物とお客様のために、職員一同精一杯頑張ります！よろしくお願いいたします！

早くから並んでくれて
ありがとう！

飼育の日イベント 4月19日

今年は「園」の下の方持ち、普段入ることの出来ない調理棟をご案内し、動物に不可欠なエサについて説明しました。またポニー舎では家畜についてのレクチャーやポニーのお手入れの様子などを見ていただきました。



冷凍庫の中は
寒いでしょ～



調理棟には
動物のエサがたくさん！！



ポニーの
お手入れを
実際に見て
いただきました

研究活動報告会 3月2日

今年はパルマワラビーとアサギマダラについての報告でした。昆虫の話はこの会では初めてでしたが皆さん興味津々で聞いていました。



B to B 調印式 4月17日

インドネシア共和国の「タマンサファリ・インドネシア」と、とべ動物園の間で、オランウータンの共同保護を目的としたブリーディングローンに関する協定書（B to B）を締結し、オンラインで調印式が行われました！これからも、国内外と協力して動物のために力を尽くしてまいります！



【毎月のガイド】

- ・毎日「ペンギンのお食事タイム」
 - ・毎日「テンジクネズミのひみつみーつけた！」
 - ・毎土・日曜日・祝日「ヒボヒポランチ」(有料)
 - ・毎土・日曜日・祝日「ゾウ様のランチ」(有料)
 - ・毎日曜日「キリンの瞳に大接近」(有料)
 - ・毎日曜日「ZOOタイム1130」
 - ・第2土曜日・第4日曜日「ボランティアガイド」
- *有料ガイドのチケット販売は管理事務所でを行っています。
*動物の体調や天候により中止することがあります。詳しくは当園HPをご覧ください。

出産報告

- 2月 6日 ムツオビアルマジロ (♂2)
- 4月 1日 オグロプレーリードッグ (不明3)
- 4月 4日 オグロプレーリードッグ (不明2)
- 4月 5日 オグロプレーリードッグ (不明)
- 4月 6日 アカカンガルー (♀1)
- 4月27日 ヨツユビハリネズミ (不明2)

ムツオビアルマジロは
とべ動物園で初めての繁殖です!!



生後0日齢

元気に大きく
育ってね♪

生後10日齢



皮膚がしっかりと
アルマジロらしい色になってきました♪



アカカンガルーの
仔の名前はパプリカです

搬入報告

3月17日 シシオザル (♀1)

これからよろしくね!

とくしま動物園よりシシオザルの
リンがモンキータウンに仲間
入りしました! ぜひ会いに来て
くださいね!



死亡報告

- 2月19日 ヒワコンゴウインコ (♀1)
- 2月23日 カイウサギ (♂1)
- 2月26日 テンジクネズミ (♀1)
- 3月20日 コリデール (♀1)
- 3月25日 フンボルトペンギン (♀1)
- 4月10日 ニホンイシガメ (♂1)
- 4月18日 カルガモ (♂1)
- 4月23日 ニホンザル (♀1)
- 4月26日 ムツオビアルマジロ (♀1)



カイウサギのフリードが
亡くなりました。
移動動物園に参加して多
くの子どもたちに学びを
与えてくれました。

ありがとう
やすらかに...



2月例会 2月16日 友の会の1年と とべ動物園1年のまとめ

2月の例会は、エリアごとに令和6年度の出来事を紹介した後に、一年間の例会の振り返りを行いました。

まずは飼育第1係です。前年度に引き続き、新規動物の搬入や、年明けからのベビーラッシュなどがあり、盛りだくさんの内容を北本キーパーが写真や動画を交えて紹介しました。オシドリの誕生に始まり、カリフォルニアアシカ、インドホシガメ、フンボルトペンギン、ミナミコアリクイ…と各獣舎はどんどん賑わいが増しています。その反面、長年当園で過ごしてきたカリフォルニアアシカの「タエコ」や、オオサイチョウの「天王寺」との別れもあり、嬉しいことばかりではありませんでした。また、節目の25歳を迎えたホッキョクグマの「ピース」の誕生会の賑わいも話題となりました。



令和6年度も多くの動物が誕生しました！

続いて、飼育第2係は三根生キーパーが紹介しました。ジャガーとライオンが誕生し、さらに賑やかになったこのエリア。ジャガーの「琥珀^{こはく}」は母親の「ミワ」と同じぐらいの体格に成長し、三つ子のライオンの内で唯一オスの「つくし」は、たてがみが生え始めるなど順調に成長しています。そんな彼らのまだ幼い時の写真や動画を見ることもできました。また、当園では12年ぶりに誕生したシロオリックスの「みたらし」も顔に模様が入り、角も伸び始めているとのことで、サバンナエリアで見ることができるようになる日が楽しみになる報告もありました。



小さい時の映像に思わずほっこり♡

最後は飼育第3係のエリアを松浦キーパーが紹介しました。松浦キーパーが担当しているアカカンガルーは、今年度たくさんの子どもが誕生しました。その数なんと、12頭！園内での年間最高記録を樹立したそうです。たくさん名づけができる嬉しさもあり、その半面大変だという話もありました。他にもパルマワラビーの誕生や、オランウータンやチンパンジーの誕生会の様子なども紹介がありました。園長のあいさつにもありましたが、オランウータンの新個体が搬入される予定もありますので、今後も目が離せません！



今後も楽しい報告が聞けそうです！

各係の報告の後に令和6年度の友の会の例会の様子を動画で振り返りました。多くの方に参加していただき、どの例会も楽しい時間を過ごすことができました。令和7年度も動物やとべ動物園についてもっと詳しく知ることができるような例会を作っていきますので、引き続き皆さままでご参加下さいね。

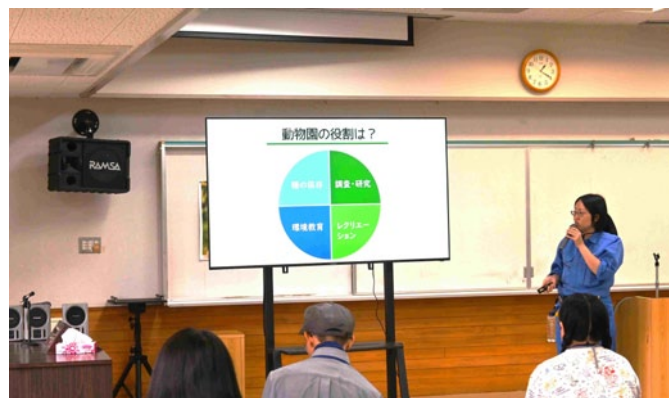
(山本 祥菜)

年度初め式と動物園ガイド

令和7年度最初の例会は27名にご参加いただき、ふれあいセンターにて年度初め式と、その後園内に出て動物園ガイドを行いました。

まず初めに、宮内園長から園内の近況報告がありました。最近の動物の搬入や死亡についての情報や、ボルネオオランウータンの「ハヤト」のパートナーとして、インドネシア共和国の動物園からメスの「ジェニファー」を迎える予定であることをご報告いたしました。

その後は、令和7年度も継続して指導部長を務める山本キーパー、並びに編集部長を務める宮越キーパーの新年度のあいさつがあり、引き続いてレクチャーが行われました。



山本指導部長によるレクチャー

レクチャーの内容は「動物園の4つの役割」についてで、それぞれとべ動物園で行われている事例を挙げながら、動物園の役割について深掘りしていきました。ホッキョクグマの人工哺育に代表される「種の保存」、ハズバンダリートレーニングや野生生物の調査のような「調査・研究」、エサやりイベントなど動物園を楽しんでもらうための「レクリエーション」、そして幼稚園・小学校等への移動動物園や園内での飼育体験のような「環境教育」と、4つに大まかに分けられることを紹介し、とべ動物園がこの全てにバランスよく取り組み、役割を果たしていることを説明しました。一般的にも4つの役割は言葉として紹介されることはありますが、出席された皆さまは具体的な例を挙げながらの解説を真剣に聞き入っておられました。

レクチャーの後は、キーパーがとべ動物園の動物たちのガイドを行い、普段の順路とは逆のルートで園内を巡って行きました。お天気はややどんよりとしていたものの雨は落ちて来ず、また暑い日が続く中で久しぶりの涼しい気温であったため、多くの動物たちも過ごしやすそうにしていました。キーパーに連れられてたくさんの会員の方が歩いている様子に動物たちも興味を示し、活発に動き回って近づいて来たり、鳴き声であいさつをしたりする様子も見られました。



ブリッジまで上がってくれたレッサーパンダ

ガイドの途中、アフリカストリートではアフリカゾウとカバのエサやりガイドを行いました。普段のイベントとは違う獣舎内からのエサやりをしたり、いつもは時間が限られる中でなかなかできない担当キーパーへの質問をしたりと皆さま充実した様子で体験を楽しまれていました。



担当キーパーの解説とエサやり体験

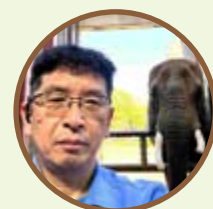
園内を概ね一周する形で、様々な動物たちについて多くの引き出しを持つキーパー達のガイドを聞き、お互いに感想を話しながら楽しそうに動物たちをご覧になる姿が印象的な例会となりました。

(高田 優)

アフリカゾウの

アニマルウェルフェア向上の取り組み

担当課長 兵頭 佳夫



☆目的

とべ動物園ではアフリカゾウのメス3頭（リカ 38歳、媛 18歳、砥愛 11歳）を飼育しています。3頭のアフリカゾウが心身ともに健やかに暮らせるようアニマルウェルフェアの向上に取り組んだので報告します。

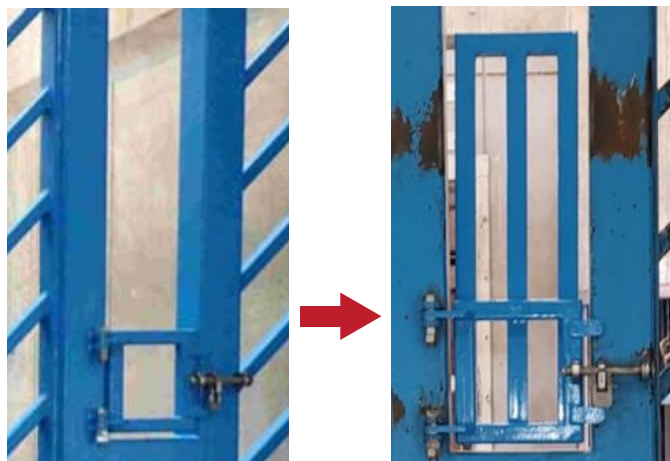
☆方法

アニマルウェルフェアとは、日本語では「動物福祉」と言います。今回それを向上させるために環境と給餌の両面でいろいろと試みました。環境面では獣舎の改良や遊具の交換、夏季の暑さ対策、冬季の防寒対策に取り組みました。給餌面では、新たなフィーダー（給餌器）の考案、ペレット（固形飼料）用の自動給餌機の導入、乾草の自動給餌機の製作を実施しました。

☆環境面での取り組み

●採血用耳出し扉の改良

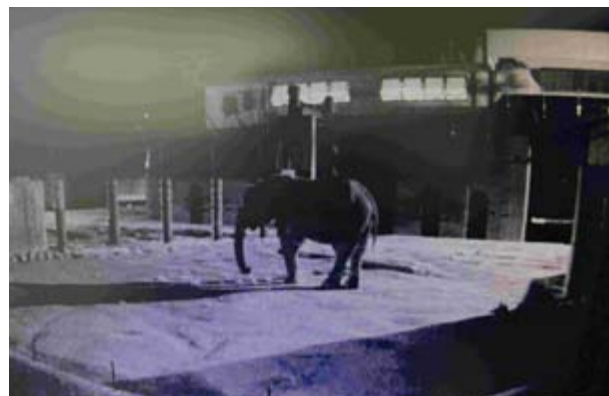
動物の健康管理のために行う採血ですが、ゾウでは耳の血管から実施します。安全のために格子の隙間に耳を出す扉を設置していますが、当初の扉では媛がその上部に前肢を乗せて踵部に裂傷ができていました。そこでその部分にも格子を設置して足を乗せられないようにしました。



耳出し扉の改良

●夏季の夜間放飼

暑い寝室でのストレスを軽減するため、夜間に運動場と寝室を自由に行き来できるようにしました。3頭の内、よりストレスを感じているように見える媛の夜間放飼を2024年6月27日～9月30日に実施し、リカと砥愛を含めた3頭での夜間放飼も7月30日と8月6日に実施しました。



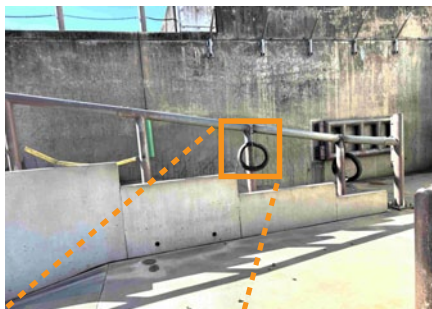
媛の夜間放飼の様子



3頭での夜間放飼の様子

●遊具の交換

これまで自動車のタイヤを遊具として使用していましたが、劣化や破損によって内部のワイヤーが表面に出てきて皮膚を傷つけたり、足裏のパッドに刺さるなどの危険がありました。そこで、それらの代替品としてオートバイ用のタイヤや小型の丸太（直径20cm、高さ80cm）を新たに設置しました。



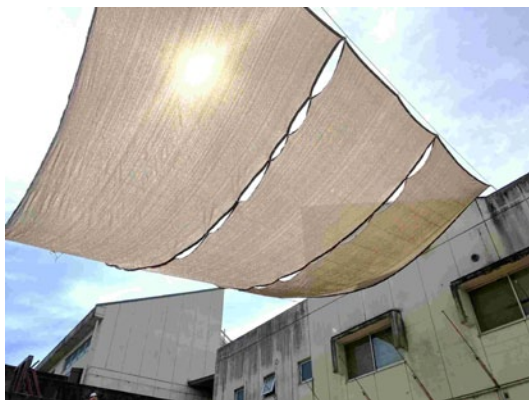
オートバイ用タイヤ



小型の丸太

●夏季の運動場日陰の設置

当園のゾウの放飼場には日陰がなく、日中は寝室との行き来を自由することで暑さ対策をしていました。大がかりな日よけ設備は工事費も高額になるため、安価な材料で自主製作することにしました。ゾウ舎の屋上からワイヤーを伸ばしてそこにサンシェードを張る方法です。太陽光の位置と角度などから日陰のできる場所を想定し、なおかつワイヤーの設置が可能であることも考慮して場所を決めました。十分な日陰が確保できることと、ゾウの鼻が届かない高さかどうかをまず細いロープを張って実験しました。縦6m×横8mの広さに貼ったサンシェードは設置後も回収が可能なように工夫しました。9月3日に設置を完了しましたが、日陰に入って採食する姿を見ていると、昨年の猛烈な残暑を少しでも防げたのではないかと思います。



サンシェード設置完了



日陰に入って採食中

●冬季の防寒対策

冬を迎えるとゾウ舎の室内温度は最低8℃くらいまで下がることもありました。寝室の天井にはガスヒーターが設置されていますが、獣舎が広いので、なかなか温度が上がリません。少しでも温度の低下を防ぐために、まず窓ガラスに緩衝材シートを張りました。



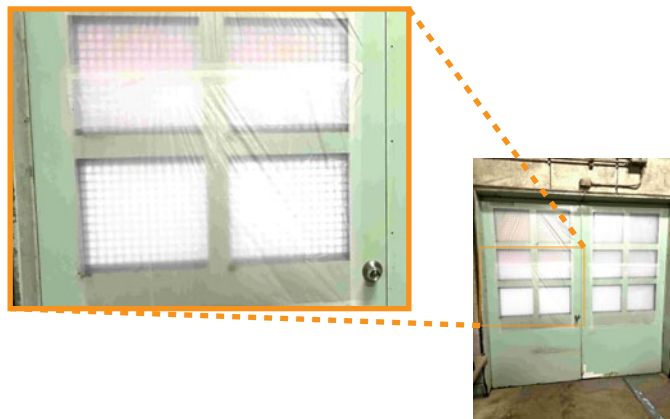
窓に緩衝材シートを設置中

次に室内展示場のガラスには押出法ポリスチレンフォーム（厚さ25mm）を設置しました。室内のゾウが見えるように日中は取り外します。



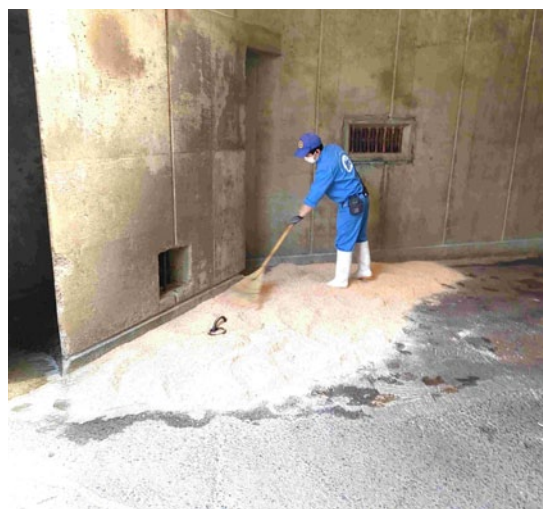
室内展示場のガラスの防寒対策

さらに獣舎入口の扉のプラスチック製窓（夏季には撤去）にビニールを貼って断熱材の代わりにしました。また、運動場と寝室を仕切る大型の自動扉は壁との間の隙間が大きいので隙間風対策として目張りテープを貼りました。



大扉のプラスチック製窓の目張り

寝室の床はコンクリート製で横臥すると体温が奪われます。その対策として、ゾウがよく寝ている場所にオガクズを敷き、体温を維持できるようにしました。オガクズを敷くことは四肢の負担軽減にもなったと思われます。



オガクズ敷き

☆給餌の取り組み

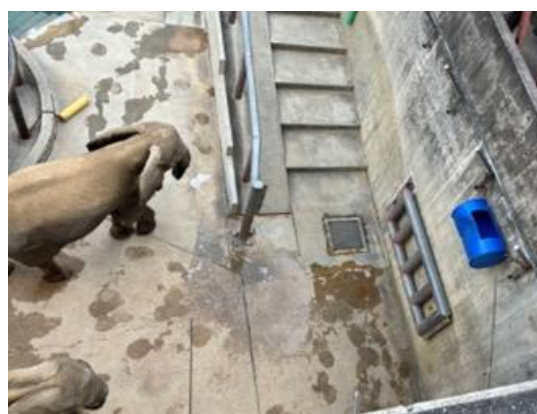
野生のゾウは一日の大半を採食に費やしています。現在当園では日中に6回給餌していますが、採食時間をもっと長くして退屈な時間帯を少なくするために給餌方法も見直しました。餌を床に置くとすぐに食べ終わってしまうため、餌を取りにくくするためのフィーダーの改良と夜間の自動給餌機の更新に加え、新たに乾草の自動給餌機を製作しました。

●運動場に新型フィーダー設置

これまで運動場に設置していたプラスチック製ドラム缶で作ったフィーダーが破損したため、耐久性の向上を考慮して、縦型から横型に作り直しました。横型では上部から簡単にエサの補充ができるようになり、この中にはペレットや乾草を入れます。



フィーダー製作中



フィーダー設置完了

●寝室の自動給餌機の更新

従来使用していたペレットの自動給餌機が故障したため、新しい自動給餌機に更新しました。旧型は一日4回の自動給餌でしたが、新型は6回の給餌が可能になりました。

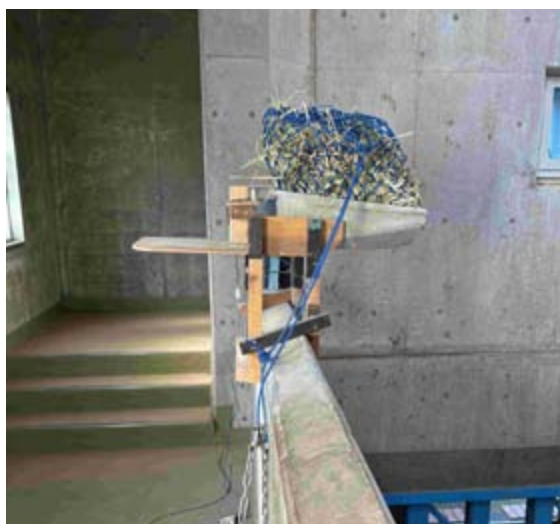


ペレットの自動給餌機

●夜間の自動乾草給餌機の製作置

ゾウ達は16時から翌朝9時までの約17時間を寝室で過ごします。乾草はヘイネットに入れて天井から吊るして与えていますが、24時ころまでには完食している様子でした。そこで、さらに採食時間を延長するために乾草の自動給餌機を設置して、午前3時に乾草を与えることができるようにしました。岩手大学と盛岡市動物公園が共同開発した「自動給餌機（給ちゃん1号）」の設計図を参考にして改良を加えました。これは電磁石を利用して、通電が切れると稼働する構造です。媛の寝室とリカ、砥愛の寝室は構造が異なるため、それに合わせて2種類の給餌機を作りました。

媛の寝室には上部にコンクリートの擁壁があるため、シーソー型の給餌機をこの擁壁に設置することにしました。「てみ（大きな塵取り）」と廃材を利用しました。廃材で作った台の上にてみを置き、その中に乾草を入れたヘイネットを入れておきます。台は電磁石で固定してあり、タイマーで電源が切れると台が傾いて、ヘイネットがゾウの鼻が届く高さまで下りる仕組みです。



鼻が届かないよう高床式にしました

リカと砥愛の寝室には擁壁がないため、エサ台ではなく、高い位置に設置した棒を電磁石で固定して、それにヘイネットを吊りました。電源が切れると棒が傾いてヘイネットが下りる構造です。

個体によって鼻の届く高さが異なるため、それぞれに合わせてリカは6m、媛は5.75m、砥愛は5.5mの高さに自動給餌機を設置し、時間までにヘイネットを取られないようにしました。



吊り下げ式

☆結果と考察

耳出し扉の改良で、自傷行為による媛の裂傷は一時減ったものの、再び足を出すようになって再発したため、今後さらなる改良を必要としています。夏季の夜間放飼は、媛単独の場合は良かったのですが、3頭同時に行くとリカが他の個体の餌まで食べてしまうため、それへの対策が新たな課題となりました。

遊具については、オートバイ用のタイヤに替えたことで破損が少なくなりました。寝室に入れた丸太も良く利用しており、ストレス軽減に役立っているようです。サンシェードの設置は運動場に日陰ができることにより直射日光を妨げ、体温の上昇を防ぐことができました。しかし、強風の際に支柱が曲がってしまい、強度面での改善が課題です。

冬季の防寒対策では温度低下をある程度防ぎ、暖房費の削減にもつながりました。給餌に対する取り組みでは、採食時間がさらに延長され、有効だったと思われます。また乾草の自動給餌機を設置したことで職員のいない夜間に多量の乾草を給餌することが可能になり、一日の給餌回数が増えました。採食回数の増加と採食時間の延長によって、退屈な時間が減り、寝室内での投げ糞行動も激減しました。ストレスの緩和に大きな効果があったものと思います。これからも新しい発想や工夫でゾウたちのアニマルウェルフェアを向上できるようにしたいと思います。

最後に、乾草自動給餌機の設計図をご提供くださった岩手大学、盛岡市動物公園の皆様はこの場を借りて深く感謝いたします。

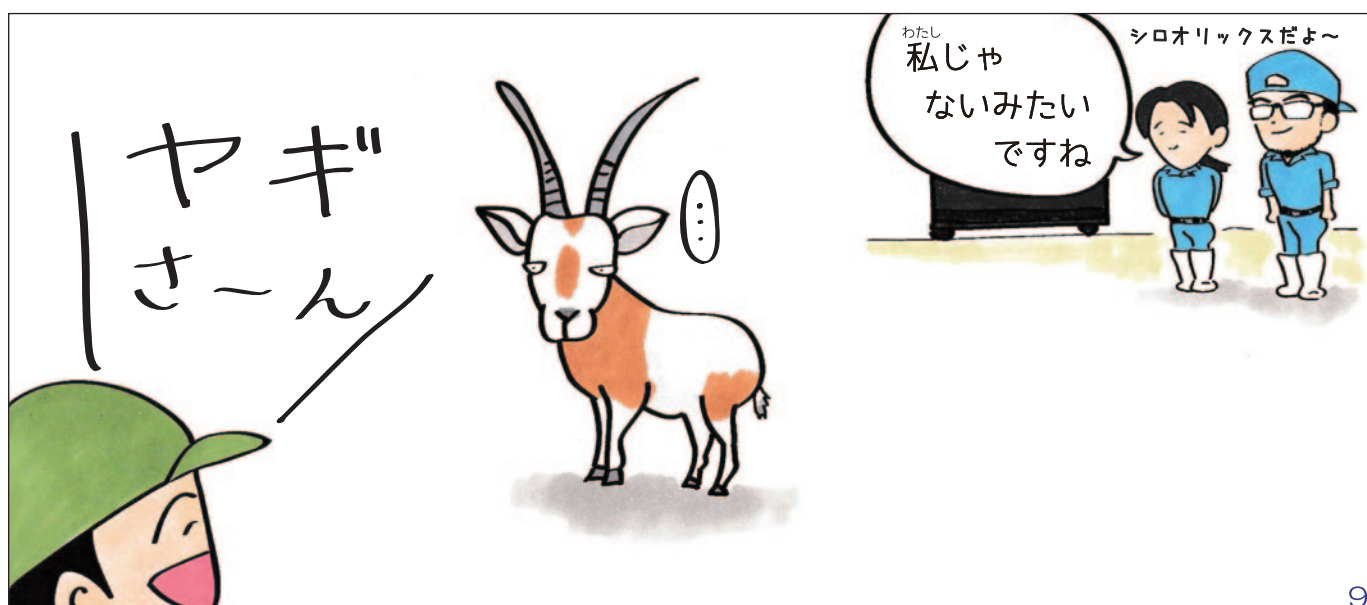


動物園の なにげない一日

～ やぎさん!? ～



サバンナ展示場にはキリン・グラントシマウマ・シロオリックス・エランドといった草食の動物たちがいます。
種が違う動物たちを同じ場所で飼育することにより、お互いが刺激を与えあい日々の暮らしが豊かになります。



見た目が大きなヤギっぽいシロオリックスはウシ目ウシ科オリックス属に分類される動物で、サーベル状の長い角が特徴です。ちなみにヤギはウシ目ウシ科ヤギ属に分類されます。同じウシ科なので似ている特徴も多いのです。



～ ガンカモ類の全国一斉調査 ～

* どうやって数えるの？

この調査はガンカモ類の冬季の生息状況把握のために1970年から毎年行われています。1月中旬の基準日前後一週間に各調査地で双眼鏡等を用いた目視により、個体数を種ごとにカウントするものです。最終的には全国から集まった調査結果を環境省が集計します。第55回調査（2024年1月実施）では、全国約8600の湖沼等で約3500名のボランティアが調査を行っています。私も20年前から本調査に参加して、動物園周辺の15の池のガンカモ類をカウントしています。



図1 調査対象の池の位置図
(地理院タイルを加工して作成)

小さな池では、全体を見渡せる定点から種、雌雄をカウントします。鳥たちを驚かせて飛び立たせない距離を保つことが必要です。動物園東駐車場の南にある「西大池」は飛来してくるカモの総羽数と種類が多く、加えて西側の岸が入り組んでいるため、定点でじっくりカウントするだけでなく、死角になる場所の岸を歩いてカウントします。担当している池の中で一番大きいのが、えひめこどもの城ととべ動物園の間にある「通谷池」です。この池は形も複雑で、池を区画に分けながら周回道路を歩いてカウントしていきます。いずれにしろ、実施日の天候に

※野帳…フィールドノート、野外での活動中に記録する小さな手帳

よっては湖面が波立っていたり、太陽光の直射が激しかったりと見え方は様々です。さらにカモたちは動きますし、逆に顔を羽の中に入れて全く動きがなかったりと図鑑通りの見え方ではありません。目視、カウントという調査方法は観察者の識別能力によって誤認が出てくる可能性もあるので、識別能力の向上のための継続的なトレーニングは欠かせないのです。

* ご褒美は珍鳥！？

極寒の中でじっと長時間カウントしていく中でのご褒美は、めったにお会いできない鳥たちに出会うことです。今年の調査時には西大池でカワアイサのメスに遭遇。私としては初めての出会いで大喜びでした。昨年(2024年)は東大池でツクシガモ1羽(後日、西大池で2羽)を確認。2023年にはトモエガモを過去最高の45羽確認することが出来たのです。



カワアイサのメス
撮影：高村 裕二

下のグラフは西大池・東大池でカウントされたカモの総数の^{へんせん}変遷です。皆さんはこのグラフをどのように考えますか？次号では、動物園周辺への飛来数の変遷について、私の野帳から過去の記録を引っ張り出して分析してみます。

(前田 洋一)

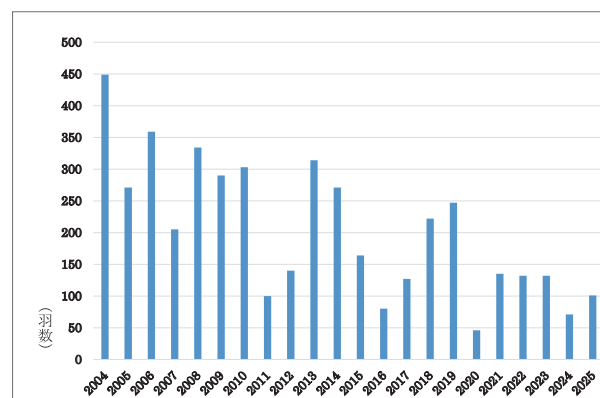
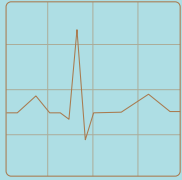


図2 西大池・東大池で確認されたカモの総数
(2004年～2025年)

参考資料：環境省 第55回ガンカモ類の生息調査(全国一斉調査)結果速報
(http://www.env.go.jp/press/111163_00002.html)



electrocardiogram

動物病院から

drug



medical record

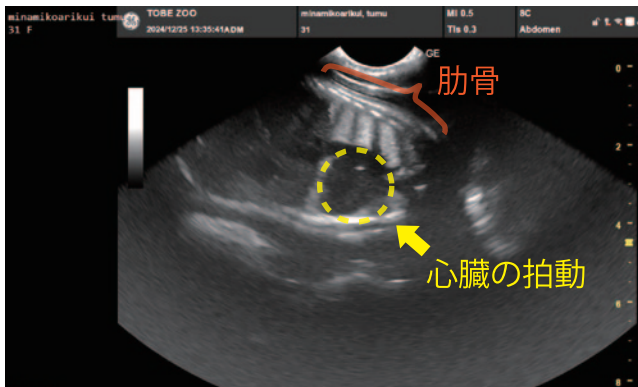
syringe



ミナミコアリクイの妊娠診断

絶滅の危機に瀕している動物種はもちろんですが、国内の動物園での個体数を維持するためにも、動物園の主な役割として繁殖があります。南米獣舎で飼育しているミナミコアリクイのツム（メス）とペロ（オス）も繁殖を期待して、2頭の相性やツムの発情周期のタイミングをみながら同居させていました。その結果、2024年8月には交尾を確認することができ、交尾が確認された後は2頭が離れて過ごすようになったため、それぞれ単独で飼育管理をしていました。

オスとメスが同居して、交尾など繁殖行動が見られたのちに、メスが妊娠しているかどうかを検査することで、産室の製作や給餌量の調整など飼育管理の面で準備ができます。交尾後、しばらくの間ツムに発情兆候が見られなかったことから、妊娠の可能性を考慮し、12月に腹部超音波検査（エコー）を行いました。



▲エコー画像

下腹部にエコーをあてると、すぐになにやら動くものが見えて、妊娠を確認しました。念のため数日後に同じところを角度を変えながら見ていくと胎児の肋骨や心臓の拍動がみられ、胎児の体がちゃんと形成されていました。ミナミコアリクイの妊娠期間は5か月ほどで、交尾の時期から考えても妊娠の後期だろうと予想できました。そして2025年1月10日にツムは無事出産し、仔はイトと名づけられました。



▲ツム（母親）にしがみつくイト

生まれたときは258gだった体重も、4月現在では1kg程に成長しています。最近では、ツムのごはんをイトも一緒に食べようと、舌をペロペロさせていてもかわいらしいです。

ミナミコアリクイは地面や朽木を大きな爪と前足で掘って壊し、中のシロアリを舌でなめとるという食事の仕方なので、もともと歯がなく、舌がとても長く、おちょぼ口なのが特徴です。動物園では代用食として、果物や野菜とお肉などをミキサーでスモージー状にしたものを与えています。



▲エサを食べる親仔

そんな長い舌があるのに母乳はどうやって飲むのかというと、長い舌を横に出して、ぱくっと乳首をくわえて飲むようです。次回の子育ての時には授乳シーンも見てみたいものです。

（獣医師 二宮 友里絵）

動物園再発見

第45回 カバ

アフリカの^{ちゅうなんぶ}中南部の^{かわ}河や^{みずうみ}湖に生息します。
^{やこうせい}夜行性で、^{ひるま}昼間は主に^{おも}水中や^{すいちゅう}水辺で^{みずべ}過ごし、^{よる}夜になると^{りく}陸に^あ上がり^{くさ}草を^た食べます。
^{ゾウ}ゾウ、^{サイ}サイに次いで^{りくじょう}陸上で^{ばんめ}3番目に^{おお}大きな^{にゅうい}哺乳類です。

【和名】：カバ

【学名】：*Hippopotamus amphibius*

【英名】：Hippopotamus

分類： 偶蹄目カバ科

IUCNレッドリスト：「VU」に指定

※IUCN=国際自然保護連合

絶滅の恐れが高い種

特徴

^め目・^{はな}鼻・^{みみ}耳は一直線に並んでいて、
^{かお}顔を少し^{すいめん}水面に出すだけで^{しゅうい}周囲の
^{けいかい}警戒や^{こきゅう}呼吸ができます。



^{すいちゅう}水中ではしっかり^め目を^あ開けて^{かつどう}活動
 します。^{みみ}耳や^{はな}鼻の^{あな}穴は^と閉じること
 ができ、^{ふんいじょうもく}5分以上^{つづ}潜り続けること
 ができます。



^は歯は、^{ひと}ヒト（28～32本）より多く、
^{ほん}40本もの^は歯が生えています。



^{とうどうちよう}頭胴長は3～4メートル、
^{たいじゆう}体重は2～3トンです。

食べもの

^{そうしょくせい}草食性で、^{くさ}草・^き木の^ね根・^こ木の^は葉などを^た食べます。^{いちにち}一日に40～50kgもの^{りよう}量を食べます。
 とべ動物園では、^{かんそう}乾草や^{あおくさ}青草、^{はいきゅうぶ}ハイキューブ、^{ペレット}ペレット、^{にんじん}人参、^{さつま芋}サツマイモを^{あた}与えています。

ひや よぼう 日焼け予防

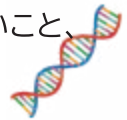
実はカバの皮膚はとっても敏感で、紫外線や乾燥に弱いです。それを補うために、粘液腺から赤色の液体を分泌します。この分泌液には、日光を浴びることによるダメージから皮膚を守る働きや、傷口からの感染を防ぐ抗菌作用があります。

分泌液は分泌直後は無色で
その後、血のような赤色に変化し
さらに時間が経つと茶色になるよ！



クジラと親戚？

カバはもともとその見た目からウシやブタの仲間だとされていましたが、遺伝子の研究が進むにつれて、ウシやブタよりもクジラ類に近いことがわかりました。カバとクジラは共通の祖先から進化したのです！
見た目は全く違いますが、水中にいる時間が長いこと、ほとんど毛がないこと、水中でコミュニケーションがとれることなど、共通点も多いようです。



とべ動物園で暮らすカバ

ハグラー♂



1987年7月4日生まれ
サンフランシスコ動物園からやってきました

ミミ♀

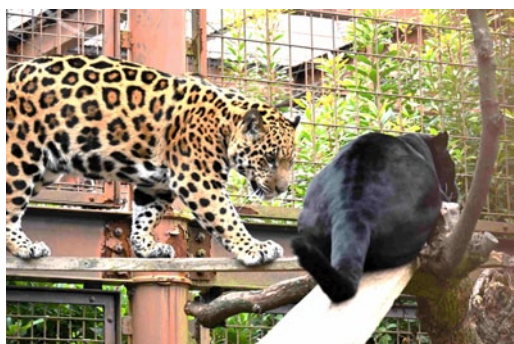


1986年5月8日生まれ
周南市徳山動物園からやってきました

Keeper's Note

☆ジャガーの親仔の新しい生活の始まり☆

とべ動物園では、2024年2月10日に1頭のオスのジャガー（名称：琥珀^{こはく}）が誕生しました。現在もすくすくと成長しており、当園においては初めてのジャガーの生育となっています。これまで琥珀は母親であるミワと一緒に生活をしていましたが、琥珀の成長に伴い2025年3月16日から2頭を分離し、別々に過ごすこととなりました。ここからは、ミワと琥珀の分離を行うまでの過程について少しお話していきたいと思います。



分離前の親仔の様子

分離の準備を始めたのは、2024年の11月からでした。最初は親仔がエサを食べている間だけ、寝室を金網で2つに仕切るところからスタートしました。はじめはエサを食べるのに夢中で特に気にする様子はありませんでしたが、食べ終わると親仔ともにそわそわする様子や、琥珀が甲高い声で鳴く様子が見られました。金網で仕切っているため、お互いの姿は見られる状態ではありましたが、やはり最初は不安があったのだと思います。その後、少しずつ慣れてきたタイミングで、分離の時間を延ばしたり、仕切る板を金網ではなく金属板に変更するなどして、段階的に準備を進めました。

夜間の分離を始めたのは、2025年1月17日からでした。分離の準備を始めてから約2か月半が経過しており、もう少しで琥珀は1歳を迎える時期でした。そのため、そろそろ本格的な分離に向けて動い

ていかなければいけないと考えていました。はじめは金網で寝室を仕切り、夜間はそれぞれの寝室で過ごしてもらいました。そして、一週間ほど経過した後に金属板で仕切り、夜間の分離を実施しました。琥珀は少し不安そうに鳴いていましたが、日に日に落ち着きを見せ、大人のジャガーへと少しずつ成長していきました。

2025年3月3日・10日には、放飼場での分離練習を行いました。これまでは親仔で同じ放飼場にでていましたが、この2日間は完全分離に向けてそれぞれ別の放飼場に出ることになりました。下の写真は那时的琥珀の様子です。写真ではリラックスしているように見えるかもしれませんが、隣の放飼場にミワが出ていないときは何度も鳴いたり、うろうろしたりと落ち着かない様子でした。この時には、琥珀が独り立ちをする日程が決まっていたため、その前に放飼場での分離練習を行えるのがこの2日間だけでした。そのため、無事独り立ちできるのかと少し心配をしていました。しかし、その心配をよそにミワは比較的落ち着いた様子を見せており、担当者としてはホッとした気持ちでした。



放飼場での分離練習中の琥珀

そして、2025年3月16日の夕方から琥珀の独り立ちがスタートしました。これまで、放飼場では遊ぶ姿が多く見られましたが、現在では以前よりも遊ぶことは少なくなったように感じます。これも一つ大人になってきた証拠なのかなと思っています。しかし、まだまだ子供っぽい様子は残っており、お気に入りのおもちゃを咥えたり抱えたりする場面を見ることもできるため、そんな姿を多くの方に見ていただきたいです。これからも親仔の成長をお楽しみください！

（薄田 翔太）



会員のページ

会員さんから頂いた
お便りを紹介します♪

とべ動物園に初めて行ったのは、ちょうど1年前になります。ゆっくりとテレビを見る時間もなくて、いつか見ようと思い、録り溜めていたテレビ録画の中に『しろくまピース20歳〜家族と歩んだ“いのち”の軌跡〜』がありました。それを見て、いてもたってもいられなくなりピースに会いに行ったのです。本当に幸せな気持ちになりました。高市さんと御家族、とべ動物園の方々、ピースを守って下さりありがとうございました。バリーバお母さん、ピースを産んでくれてありがとう♡これからも動物サポーターを続けて応援させていただきます♡



友の会 杉山純子さん

フンボルトペンギンの赤ちゃんたちに早く会いたいです。ペンギンの赤ちゃん特集をしてほしいです。

友の会 尾崎ゆずさん



エランドの飼育レポート、大変読み応えがありました。ハズバンダリートレーニングについては知っていましたが、試行錯誤、一進一退、皆さんの日々の努力、積み重ねに動物と向き合う真摯さを感じました。

フィアとビッツの間にいつかかわいい子が生まれるよう心からお祈りしております。



動物サポーターさん

私の学校では今とべZOO牛乳が出ています。ピース、ココロ、アネ、モネつくし、こはく みんな好きですが特にこはくは大好きです。佐助とミワもです。仕草がとっても可愛らしい。

2025年度もよろしくお願いします。

私の夢は今のところですがとべZOOで働くことなのでしっかり勉強して、動物たちを心から愛せるようになりたいです。



友の会 鎌田千麦さん

2025年ねこ歩きイベント、ハズレでした（残念）再チャレンジ頑張ります。今年、古希を迎えた私、あと5回チャレンジできるよう体力・気力・好奇心の維持に努めます。

友の会 森幸子さん



会員のページで撮影された写真を楽しみながら見させていただきました。遠方に住んでいるので、とべ動物園になかなかいきません。ありがとうございました。今号の「マレーグマ」の写真、素敵です。日々、お世話されている「キーパー」ならではの決定的な瞬間でしょうか…



友の会 田中早苗さん



広報誌の表紙写真は、広報担当者が撮影しています！編集部長の期待に応えるのは大変です（笑） 編集部

いつもたくさんのお便りありがとうございます！



このページではとべ動物園で働く職員を紹介しています



★ 氏名を教えてください。

4月から、とべ動物園（愛媛県動物園協会）で常務理事として勤務しております矢野 倅二です。どうぞよろしくお願いいたします。生まれも育ちも松山市（和気地区）です。

★ 学生時代の思い出を教えてください。

グリークラブ（男声合唱団）に所属し、コーラスをしていました。パートはバリトンです。

★ 今までのキャリアを教えてください。

令和7年3月まで38年間、愛媛県職員として、産業振興や秘書業務、税務行政、社会教育などに取り組んできました。

★ 現在担当のお仕事は？

まだまだ勉強中ですが、とべ動物園の運営全般を担っています。

★ とべ動物園に就職が決まった時の感想は？

全く予想しておらず、まさに「青天のへきれき」でしたが、今は毎日、たくさんの動物に出逢える喜びをかみしめています。

★ 趣味を教えてください。

無趣味な人間で恥ずかしい限りですが、読書、散歩のほか、最近では、下手の横好きで、アルトサックスを習い始めました。
でも、至福の時間は、3人の孫（4歳と1歳の男の子、1歳の女の子）と遊んでいる時です。

★ 動物園の中で好きな動物は何ですか？

子どもの頃から、優しい目をしているウマが好きです。とべ動物園にいるノマウマやポニーも、表情が愛らしく、癒やされます。

★ その他とべ動物園でのおすすめポイント（動物）などがあれば教えてください。

どの獣舎も、お客様目線でストーリー性を持たせ、変化に富んでいて甲乙つけがたいのですが、個人的には、ライオンやシマウマ、キリンなどがある「アフリカストリート」が壮大で迫力があって気に入っています。

★ 動物園で今後やってみたいことはありますか？

まだ具体的なプランを持ち合わせていませんが、あらゆる世代の方々に来園していただけるような仕掛けづくりに取り組みたいです。

★ 座右の銘を教えてください。

「惻隱（そくいん）の情」です。中国の孟子の言葉で、相手の気持ちに寄り添って物事を考えることです。世知辛い現代社会にあって、どうしても自分中心になりがちですが、周りの方々に対する思いやりや感謝の気持ちを持って日々過ごしたいものです。

★ 最後に意気込みをひとこと

開園37年目を迎えたとべ動物園のポテンシャルは、全国屈指であると自負しています。来園していただいた全てのお客様に満足していただき、笑顔で帰っていただけるよう、精一杯取り組んで参ります。



読者投稿用紙

料金受取人払郵便

松山南局承認

1210

差出有効期間
2027 年 3 月
27 日まで

〒791-1190

伊予郡砥部町上原町 240

愛媛県立とべ動物園

愛媛動物友の会編集部 行



のりづけ②

のりづけ①

のりづけ③

きりとらせん

読者投稿用紙

(イラストや写真も同封できます)



読者の皆様の原稿をドシドシお寄せください。



Vol.37-1号でよかった記事、
つまらなかった記事は？



ルトラーをさがせの答え
(正解者のお名前は
Vol.37-2号でご紹介します)

答え ○ 匹



今後希望する記事・内容は？

(クイズの問題はP23参照)



例会でよかった点、つまらなかった点は？



例会で今後希望する企画は？

お
名
前

「広報誌とベ ZOO」のなかで名前を掲載されたくない場合はご記入ください。

ニックネーム：

会
員
番
号

★ 友の会 家族・個人

★ サポーター

No.

会員の方は会員種別に○をし、会員番号をご記入ください。

住
所

〒

電
話
番
号

※Google フォームから投稿することもできます。詳しくは 23 ページをご確認ください。



Vol.36-4 ルトラーをさがせ!! 正解者

★ 会員番号 No.87 (家) 鎌田 千麦さん

★ サポーター 遠藤 敦子さん

正解の方々にはオリジナル
缶バッジをお送りします。

「とべZOO Vol-37 No.1 号」の中に
ルトラーが隠れているよ! ぜんぶ見
つけて、その数を応募してね!

注意: このページのルトラーは含みません。

☆前回の解説とこたえ



- ・「動物園再発見」でレッドリストを説明
- ・「動物園再発見」でワニルトラー出現
- ・「Keeper's Note」のタイトルにまぎれる

正解は3匹でした

応募要項

読者投稿用紙の解答欄に「ルトラー
をさがせ」の答えを記入して郵送す
るか、グーグルフォームもしくは
メールでお便り下さい。

7月10日までにご応募ください。

二次元バーコードを
読み込んでね!

グーグルフォームから
投稿ができるように
になりました!



開園案内

- 開園時間 — AM 9:00 ~ PM 5:00
入園午後 4:30 まで
- 休園日 — 毎週月曜日
(祝日の場合は翌平日)
年末年始
(12月29日 ~ 翌年1月1日)
- 入園料 — 一般 (18歳以上) 600円
高校生 (15 ~ 17歳) 200円
小中校生 (6 ~ 14歳) 100円
(30名以上の団体2割引)
- ホームページ — <https://www.tobezoo.com/>
- メールアドレス — info@tobezoo.com

とべZOO Vol-37 No.1 号

令和7年発行

編集・発行人/公益財団法人愛媛県動物園協会
〒791-2191

愛媛県伊予郡砥部町上原町 240

印刷/公益財団法人愛媛県動物園協会

編集委員長/宮内 敬介

編集副委員長/池田 敬明

編集委員/宮越 聡・山本 祥菜・里永 萌

村上 郁・坂本 響子・村上 ひなの

白湯 綾・横手 凱



ミナミコアリクイ



愛媛県立とべ動物園

〒791-2191 愛媛県伊予郡砥部町上原町240

TEL089-962-6000

動物取扱業に関する表示

申請者の氏名：公益財団法人 愛媛県動物園協会

事業所の住所：愛媛県伊予郡砥部町上原町240

登録番号：動愛第441号（展示）、動愛第994号（販売）
動愛第995号（保管）、動愛第996号（貸出し）

登録年月日：平成19年5月31日（展示）

平成29年5月31日（販売、保管、貸出し）

事業所の名前：愛媛県立とべ動物園

動物取扱業の種別：展示、販売、保管、貸出し

動物取扱責任者の氏名：椎名 修

登録の有効期間の末日：令和9年5月30日